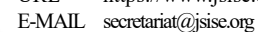


教育システム情報学会
ニュース・レター No.255





第 50 回 全国大会 開催報告

担当者： 全国大会委員会 委員長 國宗永佳（千葉工業大学）

2025年8月30日（土）から9月1日（月）の3日間にわたり、教育システム情報学会第50回全国大会を早稲田大学早稲田キャンパスにて開催しました。まずは素晴らしい会場を快くご提供くださった早稲田大学の皆さまに、心より感謝申し上げます。また、参加者の皆さま、シンポジウム等の登壇者の皆さま、展示・後援・協賛をいただいた企業・団体の皆さまに、厚く御礼申し上げます。

大会には436名、懇親会には228名にご参加いただき、今大会が研究成果の発表を通じた学術的な交流の場として、また皆さまのご縁をつなぐ・深める機会として機能したものと思います。また土曜・日曜を含む日程とするとともに、オンライン発表セッションを実施することで、多様な参加・発表形態のニーズに応えることを目指しました。

教育システム情報学会では、昨年の第49回全国大会から今回の第50回全国大会までの1年間を、学会創立50周年を記念したさまざまな事業を実施する期間と位置づけていました。今大会では50周年記念事業特別委員会の協力のもと、50周年イヤーの締めくくりにふさわしい3つのシンポジウムを実施いたしました。

大会初日には「教育システム情報学の“温故知新”」と題して、創設期から本学会を支えご活躍されてきた先生方（パネリスト）4名と、気鋭の若手研究者（指定討論者）2名による討論が行われました。パネリストからは、本学会の歴史的な経緯を踏まえた将来像をお示しいただきました。また、指定討論者とフロアからの本学会の意義・アイデンティティについての問いに対して、真摯にお答えいただきました。

大会2日目には「中学の技術・家庭（技術分野）D編から高校の情報Iへ、情報Iから大学のDS教育へ」と題して、7名のパネリストを迎えて中学・高校・大学の情報教育の連携についての議論が行われました。中・高・大での情報教育を適切に接続することの重要性と、それぞれの校種に対して教授・学習支援システムでどのような支援を行えるかという点について、参加者の皆さまを含めて共有できたものと思います。

大会3日目には「私が考える教育システム情報学の「教科書」」と題して、4名のパネリストを迎えて「教育システム情報学」が扱い、解決すべき諸問題について考えるとともに、このことをどのように伝えていくかを議論する場をもつことができました。このシンポジウムでは、教育システム情報学で扱うべき対象の広さを改めて認識するとともに、本学会への入口となる「教科書」と、より専門的な「教科書」に対する期待が大きく膨らんだものと思います。

これらのシンポジウムは、オンラインでの参加も含め大会参加者以外にも広く公開され、多くの方にご参加いただきました。本学会の創立以来51年間の中で議論されてきた教育システム情報学に関する諸課題とその解決に向けた議論を、学会内外の多くの方々と共有できたことを大変うれしく思います。

また、本大会では口頭（一般・企画）セッションとインタラクティブセッション、学生研究特別セッションが開催されました。口頭発表 142件（企画セッション 56件、一般セッション 86件（うちオンライン発表 6件））、インタラクティブ発表 41件（一般 28件、学生研究特別セッション 13件）の計183件を

数えた発表件数は、2020年にコロナ禍の中で開催した第45回大会以来、最多となりました。

発表申し込み時に選択していただく分野のうち、特に多く選択されたものは「先進的学習支援」，「学習評価・アセスメント」，「学習者特性・行動分析」，「初等中等教育」，「プログラミング教育」でした。昨年と比べると新たに「学習評価・アセスメント」と「初等中等教育」が入っており，これらの分野についての注目が高まっていることが推測できます。また，記入いただいているキーワードでは，「生成AI」，「AI（人工知能）」，「授業実践」，「外国語学習」などが多く見られました。昨年よりもさらに生成AIおよびAIのキーワードが記入された発表が多くなり，最近の研究動向をよく表しているものと思います。このような技術的なキーワードに加えて，授業実践や外国語教育のような実践に関するキーワードや学習ドメインに関するキーワードが多いことは，本学会の特徴を反映しています。

今回は大会期間の前後も含め，猛暑日が続く中での「暑い」大会となりましたが，シンポジウムや研究発表での「熱い」議論と，懇親会などでの参加者間の「厚い」つながりを醸成する場として機能したものと思っています。

次回の第51回大会を，2026年9月12日（土）から9月14日（月）に徳島大学常三島キャンパスにて開催する予定です。多くの方のご参加をお待ちしています。

末筆になりますが，今回の大会運営を担っていただいた松居辰則先生はじめ現地実行委員会の皆さま，学生アルバイトの皆さま，大会委員の皆さまの献身的なご尽力に心からの感謝の意を表して，この報告を終えたいと思います。



第 50 回全国大会奨励賞審査結果

担当者： 全国大会奨励賞選定委員長

全国大会奨励賞は、教育システム情報学および関連分野における学問の発展を奨励するため、その貢献が顕著である新進の研究者に贈呈するものです。全国大会最終日に本学会の会員であって、41 歳未満、または、本学会入会時から 10 年を経過していない方が対象です。また発表論文の第一著者であり発表時において登壇者であること、直近の過去 2 回の大会でこの賞を受賞していないことも条件となります。

本大会の審査対象は 72 件（口頭発表の部：51 件、インタラクティブ発表の部：21 件）でした。全国大会奨励賞選定委員による一次審査（論文審査）が行われ、口頭発表の部で 4 件、インタラクティブ発表の部で 4 件が最終審査にノミネートされました。全国大会では最終審査（発表審査）が行われ、その結果が審議されました。結果、以下の論文の各第一著者が全国大会奨励賞の受賞者となりました。

なお、論文は、口頭発表・インタラクティブ発表ごとに、セッション番号順に並んでおり、各々は講演番号、発表題目、著者（○は受賞者）、【所属】から構成されます。

<口頭発表の部>

A5-2 なぜ計算論的認知スキーマが今必要なのか？ーシステム設計意図の整合性評価・比較・共有に向けてー

○古池謙人(1)，油谷知岐(2)，芦田淳(3)，森田海(4)，久乗皓大(5) 【(1)東京理科大学，(2)大阪公立大学，(3)大阪大学，(4)福井工業高等専門学校，(5)関西大学大学院】

B2-1 メタ学習プログラム実践データの質的比較分析

○油谷知岐，林佑樹，瀬田和久 【大阪公立大学大学院】

E3-1 学びの振り返りの記述から自尊感情の高まりに関する記述を抽出する教師あり学習モデルの構築

○齋藤瑞樹，福原政哉，山口大成，森本康彦 【東京学芸大学】

<インタラクティブ発表の部>

P2-06 個別最適な学びにおける学習者の学びの文脈に適応的な生成 AI を用いた学びの「e パートナー」による学習支援モデル記述法の提案

○丸山浩平(1)，森本康彦(2) 【(1)東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科，(2)東京学芸大学 ICT／情報基盤センター】

以上 4 件



学生研究発表会優秀発表者の全国大会参加報告

人材育成委員会

本学会は若手研究者の育成に力を入れており、全国大会に「学生研究特別セッション」を設けています。これは、学生研究発表会の優秀発表賞受賞者と地区代表者に全国大会で発表していただく場として企画されたものです。全国大会で発表する優秀発表者および地区代表者は、「全国大会優待」として全国大会参加費と学生研究特別セッション分の論文掲載費が免除されます。

昨年度の学生研究発表会は全国8地区において開催され、優秀発表賞・優秀ポスター発表賞・地区代表者として計28名が選ばれました。2025年度全国大会ではそのうち13名が学生研究特別セッションで発表（学生研究発表会の論文が大会論文集に再掲）、1名は一般セッションで発表しました。

以下に、学生研究特別セッション発表者の大会参加報告を掲載します。

この度は、全国大会学生特別セッションという貴重な機会をいただき、誠にありがとうございました。多くの先生方や学生の皆様との交流を通じて、新たな視点を得るとともに、今後の研究課題をより明確にすることができました。さらに、多くのご指摘やご助言をいただいたことで、自身の研究をより深く見直す契機となりました。今後も情報技術を活用し、社会に貢献できるよう一層精進してまいりたいと存じます。最後になりますが、本研究にご協力いただいた皆様、大会運営をはじめ関係者の皆様に、心より御礼申し上げます。

（熊本県立大学 学部4年 山口 昂大）

この度は、全国大会で発表という貴重な機会をいただき、心より感謝申し上げます。JSiSEの全国大会という様々な分野を専門とする研究者が集う場であったからこそ、得られた気づきがありました。普段なら思いつかないような視点からの鋭いご指摘もあり、今後はこれらの助言を研究活動に活かし、教育の現場に役立つ研究になるよう精進します。最後になりますが、本大会の関係者の皆様並びに指導してくださった先生方に厚く御礼申し上げます。

（名古屋大学大学院 修士1年 伊藤 明日歌）

この度は、全国大会での発表という貴重な機会をいただき、誠にありがとうございました。今回の大会では、インタラクティブセッション形式の発表で緊張しましたが、多くの方々に研究内容を説明し、発表内容に対するご意見やご指摘をいただくことができ、自分の研究をより深く考える機会になりました。今回の発表は、私にとって成長と学びの連続であり、大変充実した時間を過ごすことができました。今大会での経験を十分に活かし、これからより一層、研究に励みたいと思います。最後になりますが、大会運営にご尽力いただいた皆様に、心より感謝申し上げます。

（高知大学大学院 修士2年 陣内 基聖）

このたびは全国大会にて発表の機会を賜り、誠にありがとうございました。ポスター発表では、多くの研究者の方々から貴重なご助言をいただき、研究を進めるうえで大変有益な示唆を得るとともに、今後の方向性を見直す貴重な機会となりました。また、大会全体を通して教育と情報技術のつながりについて深く考え、新たな知見を得ることができました。今回の経験を糧に研究をさらにブラッシュアップし、より一層励んでいきたいと思ひます。最後になりましたが、本大会の運営にご尽力いただいた関係者の皆様に心より御礼申し上げます。

(大阪公立大学大学院 修士1年 野村 優翔)

この度は、全国大会での発表という貴重な機会をいただき、誠にありがとうございました。本発表では、面接試験の観点別自動評価に関する研究をご報告しました。特に、人間採点者のバイアスや対象データの扱いに多くの関心が集まったことが印象的でした。質疑では、評価観点の定義や運用時の指標設計、データの多様性・公平性について実践的なご助言を頂き、大変勉強になりました。いただいた示唆を踏まえ、今後の研究に活かしていきたいと思ひます。最後になりますが、大会運営にご尽力くださった皆様ならびにご指導・ご助言を賜った先生方・参加者の皆様に心より感謝申し上げます。

(電気通信大学大学院 修士1年 北嶋 太一)

この度は、全国大会での発表という貴重な機会をいただき、誠にありがとうございました。私はポスター形式で発表を行い、多くの方々と直接お話しする機会をいただくことができ、大変学びの多い時間となりました。発表を通して様々な視点からご意見やご助言を賜り、今後の研究活動の参考にしていきたいと考えております。今回得られた経験を糧に、さらに研究に励んでまいります。最後になりましたが、大会の企画・運営にご尽力いただいた皆様に心より御礼申し上げます。

(電気通信大学大学院 修士1年 永井 優成)

このたびは、全国大会での発表機会をいただき、誠にありがとうございました。私は昨年ポスター発表に参加させていただいたため、今年度は一般セッションでの口頭発表に参加させていただきました。発表では、多くの方々から貴重なご意見・ご質問を頂戴し、大変有益な示唆を得られました。また、今後の研究活動にとって意義深いものになりました。最後になりますが、2年連続このような機会を提供していただいた大会関係者の方々に心より感謝申し上げます。

(富山県立大学大学院 修士2年 宮崎 勇希)

この度は、JSiSE 全国大会でのポスター発表、ならびにプレカンファレンスでの研究発表・デモンストレーションという貴重な機会をいただき、誠にありがとうございました。デモ・ポスターいずれの発表形式も初めての経験でしたが、多くの先生方や学生の方々と意見を交わすことで、研究を進める上で大切なことを改めて実感できました。特に、ポスター発表ではこれまでの発表とは比較にならないほど多くの方々と議論を重ねることができ、今後の研究を進める上で非常に有益な視点を教示していただきました。本大会の関係者の皆様と、指導してくださった先生方に厚く感謝を申し上げます。

(信州大学大学院 修士1年 朴 時穩)

この度は、全国大会へのご招待、並びに研究発表の貴重な機会をいただき、誠にありがとうございました。ポスター形式での発表は初めてで緊張しましたが、多くの先生方や学生の皆様に研究へ関心を寄せていただき、意見交換や議論を通して非常に有意義な時間を過ごすことができました。また、自分にはない新たな視点からのご意見やご指摘をいただき、自身の研究を改めて見直す良い機会となりました。本大会で得た知見を今後の研究活動に活かし、より良い成果を目指して精進してまいります。最後になりますが、本大会の運営にご尽力いただいた関係者の皆様、ご指導いただいた先生方に、心より感謝申し上げます。

(信州大学大学院 修士1年 和田 愛未)

この度は、全国大会にてポスター発表の機会をいただき、誠にありがとうございました。ポスター発表は、自身の研究内容をゼロから説明する貴重な経験となりました。熱心にご質問やご意見をいただいたことで、研究を客観的に見つめ直すことができただけでなく、新たな視座を得ることができました。また、研究活動そのものの奥深さや面白さを再認識する機会となり、今後の大きなモチベーションに繋がりました。この経験を糧に、より一層研究活動に邁進していききたいと思います。最後に、このような貴重な機会を与えてくださった大会関係者の皆様、そして日頃からご指導いただいている先生方に、心より感謝申し上げます。

(早稲田大学大学院 修士1年 榎本 尚輝)

この度は名誉ある賞をいただき、全国大会にご招待いただきまして、誠にありがとうございました。早稲田大学様はとても敷地が広く、大学内で迷ってしまう時もありましたが、学生スタッフの方々に助けていただきながら、会場に着きました。会場に着いてからは JSISE の役員の方々に助けていただきながら、発表をやり終えることが出来ました。大学生の時も担当の先生に助けていただきながら研究を卒業までやり切ったことを思い出しました。私は幾つになっても 1 人では生きていけない事を思い知らされましたが、それを逆手にとって色々な人に助けていただきながら、私も誰かの助けになれるように生きていきたいと思わされる学会でした。

(株式会社グレースコミュニケーション 高梨 美雪)

この度は貴重な機会をいただき、誠にありがとうございました。昨年度に初めての学会への参加と発表を行い、表彰していただけたとは予想もしておらず、大変驚いておりました。全国大会へ参加させていただくことになり、非常に緊張しておりましたが、大会参加者の皆様から優しく歓迎いただき、他の発表者の方の研究内容や考え方にも感銘を受け、本当に価値ある経験になったと思っております。この経験を活かし、自身の今後の研究にも真摯に励んでいく所存です。最後になりますが、研究の指導をしてくださっている先生方、本大会の関係者の皆様、運営に携わってくださった学生の皆様、参加者の方々に心よりお礼申し上げます。

(函館工業高等専門学校 専攻科2年 吉岡翔太)

人材育成委員会では、学生研究発表会、全国大会学生研究特別セッションを継続していくとともに、今後も若手育成を活性化させる企画を検討していきます。



第 51 回 全国大会のご案内

担当者： 全国大会委員会

全国大会開催 51 回にあたる 2026 年度全国大会の開催日と開催場所の予定が決まりました。

<https://taikai2026.jsise.org/>

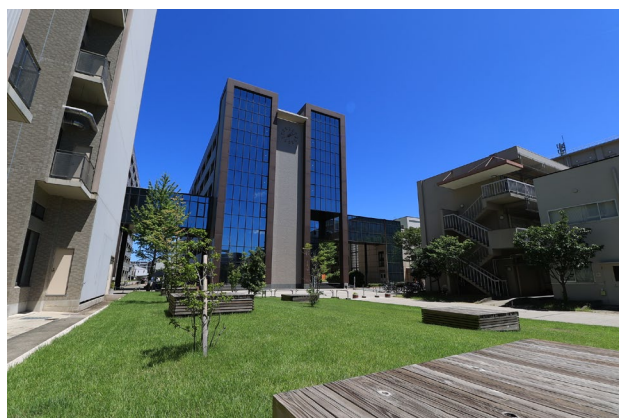
開催日（予定）： 2026 年 9 月 12 日（土）～ 9 月 14 日（月）

開催場所（予定）： 徳島大学（常三島キャンパス）

<https://www.tokushima-u.ac.jp/>

ぜひご参加をご検討ください。大会の詳細は随時 Web サイト等でご案内いたします。

■ 会場外観



提供：徳島大学理工学部

■ アクセス

https://www.tokushima-u.ac.jp/access/shinkura_josanjima.html



2027 年度発刊 特集論文募集

担当者： 学会誌編集委員会委員長 後藤田 中（香川大学）

Vol. 44, No. 2 学会誌 特集「**これからの学習を生み出す学習デザイン・支援システム・分析**」

論文投稿締切：2026 年 6 月 1 日(月)（予定）

2027 年 4 月 1 日 発行（予定）

古典的な学習の場である教室での対面一斉授業から離れた「場所・時間によらない学び」や、問題解決スキルや批判的思考スキルの涵養といった「知識伝達に留まらない学び」など、多様な学習機会の提供に目掛けた教育・学習支援システムの開発が進んでいます。それらは、遠隔ライブ授業、オンデマンド動画授業、モバイルラーニング、eラーニングなどをベースとしつつ、インストラクショナルデザインに基づいた設計や、ラーニングアナリティクス、AI を活用したパーソナライズなど多種多様な工夫によって成り立っています。

これらをふまえ、本特集論文では、これからの学習を生み出す多種多様な工夫に視点を当て、さまざまな学習機会を提供する学習支援システム、それらのシステム設計、効果的な活用方法、そのシステムの裏にある学習デザイン、システム利用者の学習分析などについての論文を幅広く募集します。

1. 対象分野

古典的な学習の場から離れた学びを提供することに関連する学習システムの設計、学習システムの効果的な活用方法、学習システム利用者の学習分析、その他様々な観点において、これからの学習を生み出すことにつながる論文を幅広く募集します。

2. 論文種別

すべての種別（一般論文、実践論文、ショートノート、実践速報）の論文を募集いたします。なお、査読を通して、異なる種別での採録となる場合があります。また、内容により一般号掲載論文へ変更する場合があります。

3. 投稿要領

教育システム情報学会学会誌原稿執筆要領に準じます。詳細は教育システム情報学会の Web サイト上の「学会誌投稿のご案内」でご確認ください。投稿に際しては「特集」であることを明示していただきます。また、特集論文研究会（2026 年 3 月中旬開催予定）で発表を行った方は、特集論文研究会での発表題目と発表番号も明示いただく予定としております。

4. スケジュール

論文投稿締切： 2026 年 6 月 1 日(月)【予定】

採録通知予定： 2026 年 12 月初旬まで【予定】

学会誌 掲載： 学会誌 Vol. 44, No. 2, 2027 年 4 月 1 日発行【予定】

本特集と同一テーマの研究会「特集論文研究会（第 6 回研究会との共同開催の可能性あり）」を開催します。是非、ご発表・ご参加ください。詳細は、今後の最新の開催案内 (https://www.jsise.org/society_research/) をご覧ください。

5. 特集論文編集委員会

委員長： 後藤田 中（香川大学）

副委員長： 高木 正則（電気通信大学）

筆頭幹事： 山元 翔（近畿大学）

幹事： 白澤 秀剛（東海大学），近藤 伸彦（東京都立大学），
林 佑樹（大阪公立大学），宮澤 芳光（独立行政法人大学入試センター）

幹事補佐： 油谷 知岐（大阪公立大学），吉原 和明（近畿大学）

委員： 学会誌編集委員

6. 問い合わせ

全 般： 白澤 秀剛（東海大学） E-mail: sirasawa@tokai.ac.jp



「博士論文紹介」の原稿募集について

担当者： 学会誌編集委員会委員長 後藤田 中（香川大学）

学会誌のコミュニティ・プラザ「博士論文紹介」では、博士号取得者による研究テーマを広く紹介することで、分野内の博士号取得者の研究動向を読者の皆様にお伝えしています。また、複数の研究者の紹介を一同に掲載することで、博士号取得者同士の相互理解や交流のきっかけにもなることを目指しています。本記事は毎年7月1日発行のNo.3に掲載され、投稿の募集は年度末から新年度初め（3～4月頃）にかけて、学会誌やニュース・レターを通じてご案内しています。

年1回に集約したことにより、寄稿依頼を年度末前後の3～4月頃とし、本誌や学会のニュース・レターなどを通じて、募集いたします。お近くに博士号取得者や、今後学会誌掲載時に博士号取得予定者がいらっしゃるいましたら、ご本人または、指導教員の立場によらず、以下の教育システム情報学会誌編集委員会担当委員のメールアドレスまで、お気軽に情報提供いただけますと幸いです。

2026年7月1日発行予定となります学会誌Vol. 43, No. 3につきましては、【2026年4月17日(金)】を原稿締切の予定とし、募集いたします。

執筆に際しては、博士論文紹介原稿用の執筆要領&原稿テンプレートをご利用ください。原稿および必要事項の提出に関してはGoogleフォームを用いて受け付けます。下記URLよりご利用ください。

スケジュール

原稿締切： 2026年4月17日(金)（予定）
学会誌掲載： 学会誌Vol. 43, No. 3, 2026年7月1日発行（予定）

執筆要領および原稿提出

執筆要領&原稿テンプレート：
https://docs.google.com/uc?export=download&id=1ncrIREcS_hf_2cjlCPhuI0GZV1ag47aF
原稿提出（Googleフォーム）：
<https://forms.gle/2qpeXo5vAbFYjGsk6>

問い合わせ等

問い合わせ先： 教育システム情報学会誌編集委員会 担当委員 宮澤 芳光（大学入試センター）
E-mail: miyazawa@rd.dnc.ac.jp
（「@」の部分は、半角の「@」に変えて下さい）



Information and Technology in Education and Learning (ITEL)

論文募集 [<https://www.j-itel.org>]

日本教育工学会（JSET）との合同英文誌 ITEL（Information and Technology in Education and Learning, <https://www.j-itel.org>）への掲載原稿を募集しています。この ITEL では、我が国における教育工学・教育システム情報学の国際的な発信力を強化するとともに、国際的な共同研究・研究交流のプラットフォームになることを目指しています。研究対象は、教育システム情報に関連した領域全般はもちろん、様々な教授学習場面のための方法・技術に関する基礎研究・開発研究・実践研究等も含まれます。ITEL は、J-STAGE をプラットフォームとしたオープンアクセスジャーナルです (<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/itel/list/-char/ja>)。投稿後、原則、7 か月以内に 2 回の査読が終了するように配慮しています。短期間で、革新的な研究成果、ユニークな実践等を世界に向けて発信するために活用していただければ幸いです。学位取得を目指されている方や留学生のみなさんからのご投稿もお待ちしております。

- 論文種別： 一般論文（Regular Paper, 基本 8 ページ）, 実践論文（Practice Paper, 基本 8 ページ）, システム開発論文（Development Paper, 基本 8 ページ）, ショート論文（Short Paper, 基本 4 ページで最長 6 ページまで）
<これまでのショートノート（Short Note）と実践速報（Report on Practice）を含みます>
- 投稿締切：1 年中投稿を受け付けています。
- 投稿要件：
 - 論文は他学会において査読中でないこと、そして、その主要部分が未発表であること。ただし、国際会議、学会の大会、研究会等で口頭発表した内容をまとめたものは投稿することができます。
 - 投稿者は本会会員である必要はありませんが、本会会員あるいは JSET 会員である場合には掲載料に会員の価格が適用されます。投稿者が 2 名以上の連名の場合は、そのうち少なくとも 1 名が会員であれば、掲載料に会員価格が適用されます。
- 原稿執筆要領：ITEL Web サイトに、執筆要領（Author Guidelines）等がアップされています。
- 投稿方法：< [ITEL 電子投稿システム] https://iap-jp.org/j-itel/journal_e/ >
 - ITEL Web サイト上から、電子投稿システムにログインして投稿を行って下さい。
 - 初めて電子投稿システムを利用する場合は、まず利用者用 ID の発行手続きを行って下さい。
 - 投稿論文は、論文執筆用テンプレートファイルを用いて PDF ファイルに出力して提出して下さい。
 - 投稿論文は、投稿前にできるだけ英文校正（Proofreading）を受け、証明書提出を推奨しています。
- 査読方法：
 - 投稿論文の査読は、JSiSE 英文誌と同様に、シングルブラインド制で行われます。
 - 査読者は 2 名で、査読回数は 2 回となります（著者照会は 1 回のみ）。
 - 評価項目は、Originality（新規性）、Usefulness（有用性）、Reliability（信頼性）、Presentation（明瞭性）の 4 項目となり、JSiSE 英文誌と異なり、査読中に投稿論文の種別変更はありません。
 - 投稿者の希望に基づき、JSiSE 英文誌と同様、日本語で査読コメントを受けることもできます。

最新号目次

Information and Technology in Education and Learning (ITEL) Vol.5, No.1 2025

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/itel/>

Translation	Relationship Between Changes in Classroom Practice and Beliefs about Teaching of Novice Faculty: A Longitudinal Study for Participants in a PFF Program Designed to Support the Introduction of Active Learning Yoshimi Kozai, Mana Taguchi
	Clarification of Eye-Tracking Patterns and Related Practical Thinking Styles of Teachers in the Classroom: A Case Study Using a Subjective Camera Kanji Himeno

注：Translation は，日本教育工学会論文誌に掲載された論文の一部を英訳したものです．



SIG(Special Interest Group)制度のお知らせ

担当者： 研究活性化委員会委員長 東本 崇仁（千葉工業大学）

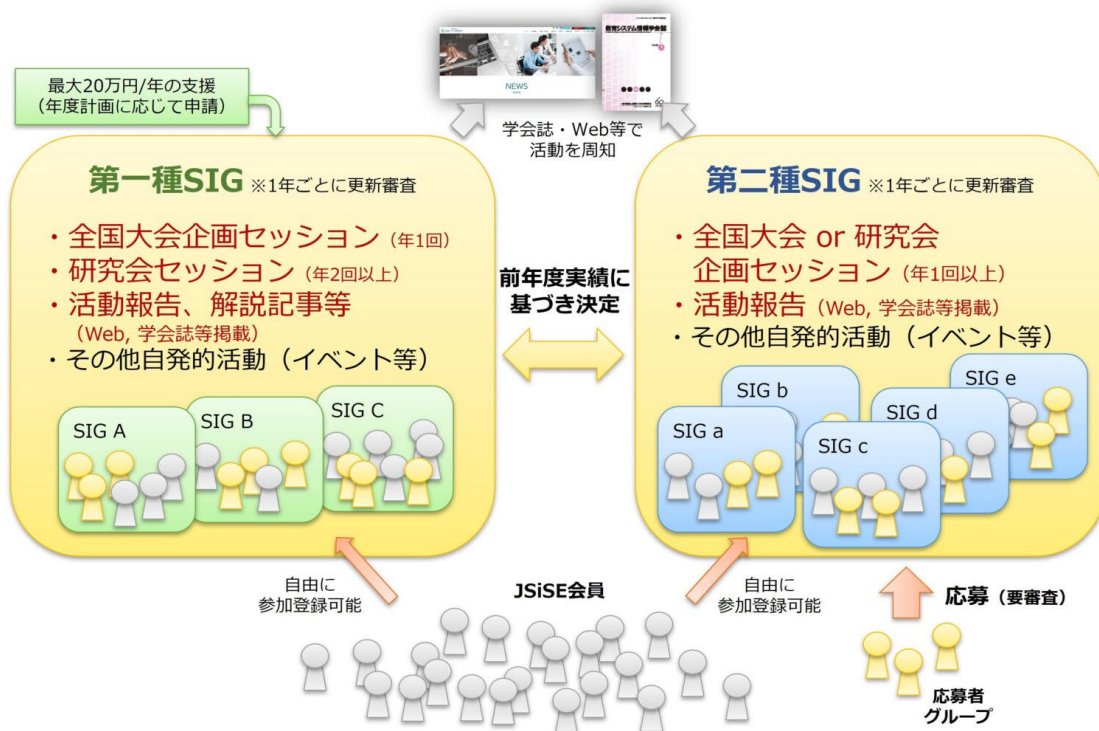
本学会における会員主体での研究活性化をめざして、2026年度より「SIG (Special Interest Group)」制度を開始します。

SIG は、特定のテーマについて学会員のみなさまからの提案により設置できる、ボトムアップな提案型・参加型の研究コミュニティです。コミュニティの活動レベルに応じて「第一種 SIG」「第二種 SIG」の2種類を用意し、第一種には費用面での支援も行います（なお、最初に応募できるのは第二種のみとなり、活動実績に応じて次年度の第一種・第二種の別が決定するしくみです）。基本的には、全国大会や研究会でのセッション企画などを中心に提案グループが主体的に SIG を運営し、一般会員は任意の SIG に自由に参加登録できるものとします。各 SIG の活動成果は学会誌や Web 等で積極的に公開します。

SIG 制度の全体像は以下の図のようなイメージです。2026 年度からの活動開始をめざし、2025 年秋から第二種 SIG の募集を開始（応募締切：12 月末）する予定です。募集要項や選考プロセスの詳細については、本学会 Web サイト内の研究活性化委員会のページ(<https://www.jsise.org/committee/kasseika/>)や jnews などでご案内いたします。

学会員のみなさまが主体となる研究活性化に向けて、積極的な応募をご検討いただければ幸いです。

お問い合わせ先：研究活性化委員会 kasseika-ml@jsise.org



図：SIG 制度のイメージ



2025 年度 第 2 回研究会開催報告

担当者：不破泰（信州大学），小松川浩（公立千歳科学技術大学），布施泉（北海道大学），
野崎浩成（愛知教育大学），金子大輔（北星学園大学），杉江聡子（北海学園大学），
本多俊一（公立千歳科学技術大学）

■テーマ：ICT を活用した学習支援と教育の質保証／一般

■開催日時：2025 年 7 月 6 日（日）

■開催場所：札幌市社会福祉総合センター

■概要：

2025 年度第 2 回研究会は、2025 年 7 月 6 日（日）に札幌市社会福祉総合センターにて「ICT を活用した学習支援と教育の質保証／一般」をテーマに開催され、53 名が参加しました。午前には 2 セッション、午後には 4 セッションが行われ、合計 16 件の研究発表がありました。2 つの分科会が並行して実施されました。また、50 周年記念事業の一環として 2 つの賛助会員セッションが開催され、4 社から貴重な情報提供をいただきました。熱心で活発な議論が交わされた研究発表を起点に、研究会終了後の情報交換会でも、27 名が参加しての有意義な意見交換が行われました。

研究発表のタイトルや発表者名などの詳細については、本学会ウェブサイトをご参照ください。

https://www.jsise.org/research_society/2025_cfp_2nd/

最後になりますが、参加者、発表者、賛助会員の皆様、そして審査委員の皆様をはじめ、関係者のご協力により、本研究会を無事に実施することができました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。





2025 年度 第 3 回研究会 開催報告

担当： 安間 文彦，小西 達裕，三好 康夫（研究会委員会）

テーマ： 多様な学習環境における動機づけ支援：対面授業からオンライン学習まで／一般

開催日時： 2025 年 9 月 26 日（金）

開催場所： サイバー大学福岡キャンパス

発表件数： 14 件

本年度第3回研究会は、「多様な学習環境における動機づけ支援：対面授業からオンライン学習まで／一般」をテーマに、サイバー大学福岡キャンパス（福岡県福岡市）にて開催されました。当日は30名の参加者が集い、14件の研究発表が行われ、活発な意見交換と熱心な議論が繰り広げられました。

今回の研究会では、研究会テーマである動機づけ支援に関する研究はもちろん、学習履歴分析やプログラミング学習支援、スキル獲得支援、テスト問題作成支援、LMS 開発など、本学会ならではの多彩で先進的な発表が多数見られました。特に、生成 AI の活用が多くの研究で取り上げられ、教育システム情報学分野の今後のさらなる発展が大いに期待されます。

発表者・参加者の皆様のご協力により、研究会は円滑かつ有意義に進行しました。この場をお借りして、心より御礼申し上げます。ありがとうございました。



研究発表のタイトルは、以下の通りです。

- オンデマンド教育における離脱率に影響を与える要因の発見
- 高校生を対象にした Basic プログラミング学習を支援するための Basic エミュレータの試作
- ソマティック・リテラシーに基づいた教育
- LMS 学習履歴による締め切り間際の行動特性定量化の試み
- LMS 連携による習慣化支援アプリの課題提出支援機能の設計
- 手書き入力漢字自動採点結果表示のナレーションとグラフィックスによるユーザインタフェース
- ファシリテータ初心者の支援を行うシステムの提案
- e-Learning 環境下における高い学習動機づけ維持のための取り組み ―自律性支援から有能感・関連性支援への拡張―
- ChatGPT の活用状況と成績データを用いたプログラミング支援システムの提案のための分析
- ピアノ初学者のための学習動画推薦システムの提案
- 読譜力向上におけるフレーズ反復学習の効果分析
- 生成 AI によるテスト問題・類題案作成と教員支援ツールの設計とチェックリストの提案―
- Scratch による選挙啓発ゲーム開発のための予備的研究
- Web リソースの容易な LTI ツール化を可能とするシステムの提案



研究会報告年間購読の申し込みについて

研究会報告は、2016年度からは印刷媒体での研究会報告は廃止し、オンライン上でタイムリーかつオンデマンドな閲覧が可能となるように、研究会報告を電子化しています。保管などの手間もなく、大変便利に活用できるようになっております。

是非、研究会報告の「年間購読」のお申し込みをご検討いただければ幸いです。研究会当日も電子媒体として販売する予定ですが、年間購読がお得になっております。

- ・年間購読:4,000 円（定例研究会年 6 回，特集研究会 1 回，計 7 回分を含む）
- ・当日販売:1 冊 1,000 円

新規での「年間購読」申込みにつきましては、年会費をお支払いいただく前に会員種別変更申込をお願いします。以下の手順でお申し込みください。すでに年間購読をしていた方は手続き不要です。

- 1) 年会費納入手続きの前に、下記フォームにて事務局（secretariat@jsise.org）まで年間購読申込をしてください。

=====

※研究会報告年間購読希望
会員番号（お分かりであれば）：
お名前：
所属：
連絡先 e メールアドレス：
=====

- 2) 手続き終了後、事務局より会員種別変更完了のご連絡を差し上げます。
- 3) マイページから年会費と合わせて年間購読費をお支払いください。

※年会費納入後に「年間購読」を申込みご希望の場合は、事務局（secretariat@jsise.org）までご連絡ください。年間購読の請求書をお送りし、会員種別変更の手続きを進めさせていただきます。

関東支部からのお知らせ



第7回リサーチ・コ・コ・コモンズ開催のお知らせ

担当者：教育システム情報学会 関東支部

昨年度に引き続き、関東支部主催にて連携（collaboration）による新たな学びの共創（co-creation）を実現するためのイベント「リサーチ・コ・コ・コモンズ」を開催いたします。今年度も学生の皆さまに自身の研究の魅力を再発見していただくための企画です。

学外の研究者・学生との議論を通じて、自分でも気付いていなかった研究の魅力を再発見して、あなたの研究をもっと伸ばしてみませんか？

開催日時：12月6日（土）11:00～18:00

場所：品川区立総合区民会館きゅりあん

対象：他大学の方々との交流を通じて自身の研究を見つめ直したい学生

※ 関東・東北地区以外の学生の方の参加も大歓迎です。

参加費：無料

備考：今年度はET研究会（電子情報通信学会 教育工学研究会）と同日・同会場での開催となります。ET研究会にご参加予定の先生方におかれましては、学生さんのリサーチ・コ・コ・コモンズへのご参加もご検討いただければ幸いです。

<プログラム>

第1部：ベテラン研究者からの熱いメッセージ

基調講演：松木 利憲 先生（電気通信大学）

タイトル：研究生生活で得られること・失うこと

第2部：魅力 Aware / Share / Deeper セッション

研究紹介

自身の研究の魅力を参加者に伝えよう

伝え方は自由（PowerPoint・ポスター・口頭のみ）中間発表などで使ったものを流用してもOK！

参加者とのディスカッション

学外の研究者・学生との建設的な議論を通じて、自分でも気付いていなかった研究の魅力を再発見しよう

発表をご希望の方は11/14(金)まで、聴講をご希望の方は11/29(土)までに下記URLよりご登録下さい。

発表をご希望の方：<https://bit.ly/rcococo2025>

聴講をご希望の方：<https://bit.ly/rcococo2025-audit>

関東支部 Web サイト：<https://kanto.jsise.org/>

関西支部からのお知らせ



第21回情報教育合同研究会 開催案内（第1報）

担当者： 教育システム情報学会 関西支部

2025年、日本の情報教育は再始動（Restart）の年を迎えています。

2020年に小学校で現行の教育課程による授業が開始され、その後、中学校、高等学校へと順次開始されました。今年1月の大学入学共通テストでは初めて情報科が実施され、4月には新教育課程で学んだ学生が大学に入学しています。このように、情報教育は1サイクルを終え、次の段階へと再始動の時期を迎えているといえます。

時を同じくして、2nd GIGAが始動し、学習指導要領も次期改訂に向けて動き始めようとしています。この情報教育の転換期に必要なのは、「情報教育は何のために行うか？」という原点の問い直しと、若い実践者の視点から情報教育のビジョンを再構築することです。

本研究会は、皆さまのおかげで21年目を迎えることができました。今年度は、会場の園田学園大学とともに、新たな歩みを始めます。そこで今回は、未来を担う若い世代に情報教育の新しいビジョンを語っていただき、そこにベテランの経験知も交えて、多層的な議論を展開します。さらに、小中高大学をつなぐ情報教育の内容や連携について議論するとともに、2nd GIGAをはじめとする教育DXの社会的文脈も踏まえ、学校・地域社会・産業界が連携して情報教育を支援する仕組みづくりなど、情報教育の未来像を共有する場にしたいと考えています。

当日のワークショップや自由企画および情報交換会の開催にも奮ってご応募いただきますようお願いいたします。

記

1. テーマ 「Restart! 情報教育ビジョン 2025～小中高大を連携する 2nd ステージの構築～」
2. 日 時 令和7(2025)年11月29日(土) 10:00～17:30(予定)
3. 会 場 園田学園大学 櫛和館(4号館)・情報教育センター(5号館)
兵庫県尼崎市南塚口町7丁目29-1 TEL 06-6429-9909(情報教育センター直通)
4. 共 催 情報コミュニケーション学会情報教育特別委員会
教育システム情報学会関西支部
日本情報科教育学会近畿・北陸支部
兵庫県高等学校教育研究会情報部会
大阪府高等学校情報教育研究会
情報教育学研究会(IEC)
氷上情報教育研究会
NPO法人 学習開発研究所

京都府私立中学高等学校情報科研究会

Logo に学ぶ会 Neo

5. 後援(予定) 兵庫県教育委員会 尼崎市教育委員会 園田学園大学 日本産業技術教育学会

6. 日程(予定)

午前の部 【ワークショップ】 【自由企画】

*共催団体会員からの企画を公募します *共催団体からの企画を公募します

【コミュニケーションタイム】(4号館1階)

昼食の合間に名刺交換や企業展示など、参加者や協賛企業・共催団体の皆様がコミュニケーションを集うくつろぎの時間を設けました。

※企業展示・各団体勧誘ブースまたはポスター掲示あり、飲食可。昼食は各自でご用意ください。

午後の部 【全体会】

1部 講演

日本産業技術教育学会 前会長 山本 利一先生(埼玉大学 教授)にお話をいただく予定です。

休憩・ICT企業展示コラボレーションタイム

2部 パネルディスカッション

「Restart! 情報教育ビジョン2025～小中高大を連携する2ndステージの構築～」

※小中学校・高等学校の先生にご登壇いただき、それぞれのお立場で情報教育のこれからのビジョンを語っていただきます。

閉会行事

閉会后 情報交換会(チャティ 5号館2階)

7. 参加費 無料(共催・後援団体会員以外、資料代500円)

8. 情報交換会 参加費4000円(予定)

9. 参加申込 10月中旬頃配布予定の開催案内(第2報)に申込の詳細を掲載します。

(続報については、関西支部ウェブページをご確認ください。)

広報からのお知らせ



ニュースレター発行回数変更のお知らせ

2024 年度より、ニュースレターの発行は年 4 回となります。研究会の開催時期と異なるため、今後は、年間スケジュールおよび開催報告のみの掲載となります。開催案内と講演募集につきましては、学会 Web サイトでご確認ください。



X (Twitter) アカウントの紹介

2016 年 8 月下旬より、全国大会開催に合わせて学会の公式 X (Twitter) アカウントを開設しました。本アカウントは原則として当学会の広報を目的とした配信専用としております。本学会へのご質問・お問い合わせは、学会事務局 (secretariat@jsise.org) へお願いします。

<https://twitter.com/JsisePr>



Facebook ページもご覧ください

教育システム情報学会の公式 Facebook ページを運用しています。本ページでは、論文・発表募集や本学会に関連するイベントの情報などをお届けしています。ぜひ、ご覧下さい。

Facebook ユーザの方は、ぜひ、「いいね」をお願いいたします。

<https://www.facebook.com/jsise.org/>

X (Twitter)、Facebook への情報掲載の依頼などは学会事務局 (secretariat@jsise.org) までお問い合わせください。



他団体 協賛・後援イベントのお知らせ

後援：「日本情報オリンピック」

日時：許可日～令和8年3月25日

協賛：「eラーニングアワードフォーラム」

日時：2025年11月17日(月)

会場：オンライン形式

(ただし、開会式、表彰式、一部講演はオンライン・オフライン双方で実施予定)

※会場は御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンター

後援：「高校教科「情報」シンポジウム2025秋（ジョーシン2025秋）」

日時：2025年10月26日(日)

会場：工学院大学 新宿キャンパス アーバンテックホール

協賛：「第36回教育・学習支援システム若手の会」

日時：2025年10月11日(土)～10月13日(月・祝)

会場：静岡県伊東市八幡野 1249-77 伊豆高原ロビング

協賛：「九州大学ラーニングアナリティクスセンター第4回シンポジウム」

日時：2026年2月9日(月)

会場：九州大学 伊都キャンパス 稲盛ホール ハイブリッド形式



国際会議のご案内

○ 2025 年 12 月開催

ICCE 2025: The 33rd International Conference on Computers in Education

開催期間 : December 1-5, 2025

開催地 : Chennai, India

URL: <https://icce2025.study.iitm.ac.in/>



会費納入のお願い

学会の運営は皆様の年会費で支えられております。今年度の年会費が未納の方はご入金をお願いいたします。なお、10月以降に年会費が未納の場合、学会誌の送付が一時休止されます。入金確認後、入金日の翌月末までに今年度内の未送付分も合わせて学会誌の送付を再開いたします。3月末までに入金を確認できない場合は、未送付分の学会誌はお送りできなくなりますので、お早めにお手続きをお願いいたします。

URL <https://bunken.org/jsise/mypage/Login>

※会員専用ページのURLは、会員情報管理システムの業務委託をしている株式会社国際文献社のものです。

- 「銀行振込」をご希望の方は、下記のいずれかの口座へお振込みをお願いいたします。

■振込先

◆ゆうちょ銀行

口座記号番号：00180-6-709632

加入者名：一般社団法人教育システム情報学会

フリガナ：シャ)キョウイクシステムジョウホウガッカイ

※他金融機関からゆうちょ銀行に振込む場合

銀行名：ゆうちょ銀行（金融機関コード：9900）

店名：〇一九 店（ゼロイチキョウ店） 預金種別：当座 口座番号：0709632

名義：一般社団法人教育システム情報学会

フリガナ：シャ)キョウイクシステムジョウホウガッカイ

◆三菱 UFJ 銀行（金融機関コード：0005）

店名：上新庄支店（カミシンジョウ支店）

預金種別：普通 口座番号：0142708

名義：一般社団法人教育システム情報学会

フリガナ：シャ)キョウイクシステムジョウホウガッカイ

◆みずほ銀行（金融機関コード：0001）

店名：茨木 支店（イバラキ支店）

預金種別：普通 口座番号：1399483

名義：一般社団法人教育システム情報学会

フリガナ：シャ)キョウイクシステムジョウホウガッカイ

- 請求書・領収書（支払い後）は、マイページでオンライン発行できます。
- 請求書・領収書の郵送をご希望の方は、事務局（secretariat@jsise.org）までご連絡ください。

※団体名でお振込みいただきますと、個人を特定できない場合がございますので、振込名に会員番号またはお名前をご入力いただくか、難しい場合は、振込内容を事務局までご連絡いただければ幸いです。
※所属が変わった方は、マイページにログインした際に、連絡先などを変更するようお願いいたします。

【過年度年会費を支払われていない方へ】

マイページでは、全ての年度の未納金額を合算した金額が請求されます。先に本年度以前の分のお支払いを希望される方は、先に郵送された払込用紙付請求書をご利用になるか、学会事務局（secretariat@jsise.org）までご連絡下さい。

※会費のお支払いが確認できない場合、学会からの送付物を停止させていただく場合があります。また、会員資格停止の手続きを進めさせていただく場合があります。

ご不明な点は、事務局（secretariat@jsise.org）までお問合せ下さい。

〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター
Tel:03-6824-9376 Fax:03-5227-8631 Email : secretariat@jsise.org



事務局より



会員専用ページのご案内

URL : <https://bunken.org/jsise/mypage/Login>

※会員専用ページの URL は、会員情報管理システムの業務委託をしております株式会社国際文献社のものです。

■会員専用ページでは、以下のことができます。

1. 会員個人ページでの、現在の登録情報の確認・変更
2. 年会費納入状況の確認
3. 会費の納入、クレジット/コンビニ決済
4. パスワードの変更

会員種別、フリガナ、研究報告年間購読の登録等はマイページでは変更できませんので、お手数ですが JSiSE 事務局会員窓口 (secretariat@jsise.org) までご連絡をお願い致します。

ログインには、ID とパスワードが必要です。

パスワードをお忘れになった場合は、上記ウェブサイトにて照会できます。何かご不明な点がございましたら、JSiSE 事務局会員窓口 (secretariat@jsise.org) までご連絡ください。

今後とも教育システム情報学会の活動にご理解ご協力のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



入会のご案内

入会をご希望の方は、下記のサイトよりオンライン入会申込フォームにアクセスしていただき、お申し込みをお願いいたします。

URL : <http://www.jsise.org/admission/index.html>

☆キャンペーン☆

※現在、本学会開催の研究会等で、会場にて新規お申し込みいただいた方には、**入会金を無料**にさせて頂くというキャンペーンを行っております。
そちらも、合わせてご案内いただきますようお願いいたします。



新入会員のご紹介

下記の10名の皆様が新しく入会されました。(2025年6月28日～2025年9月25日)

本学会での益々のご活躍を期待しております！

会員名	会員種別	会員名	会員種別
林 敏浩	正会員	竹中 裕貴	正会員
川島 壮生	学生会員	本多 泰理	正会員
林 勇吾	正会員	山口 夢叶	学生会員
佐藤 泰光	正会員	三浦 翔大	学生会員
金浜 武尊	学生会員	竹本 陸	学生会員
瀧口 裕貴	正会員(初中等)	佐藤 響	学生会員
ペレライン 由紀	正会員(購読)	竹原 一駿	正会員(購読)
松木 利憲	正会員	青野 圭汰	学生会員
田巻 公貴	正会員	齊藤 絵理子	正会員
村田 貴彦	正会員(購読)	加藤 竜哉	正会員
加嶋 多恵	正会員		